

牧 監 第 46 号
令和6年8月20日

牧之原市長 杉本 基久雄 様

牧之原市監査委員 飯塚 貴穂
同 植田 博巳

令和5年度牧之原市水道事業会計決算の審査意見書について（提出）

地方公営企業法第30条第2項の規定に基づき、審査に付された令和5年度牧之原市水道事業会計の決算及び附属書類について、牧之原市監査基準（令和2年牧之原市監査委員訓令第1号）に基づいて審査したので、次のとおり意見書を提出します。

令和5年度

牧之原市水道事業会計決算審査意見書

牧之原市監査委員

令和5年度 牧之原市水道事業会計決算審査意見

第1 審査の種類

決算審査（地方公営企業法第30条第2項）

第2 審査の対象

令和5年度牧之原市水道事業会計歳入歳出決算

第3 審査の着眼点

決算その他関係諸表等の計数の正確性を検証するとともに、予算の執行又は事業の経営が、適正かつ効率的に行われているか。

第4 審査の主な実施内容

審査に当たっては、水道事業会計の決算書、財務諸表及びこれらに関する附属書類（地方公営企業法第30条第9項の書類）について、関係法令に準拠して作成され、その会計処理が適正に行われているかを関係諸表等と照合し計数の確認を行った。

また、財政状況及び予算の執行状況については、関係職員から説明を聴取し、審査の着眼点に基づき審査を実施した。

第5 審査の実施場所及び日程

牧之原市役所 榛原庁舎6階会議室2

令和6年7月22日（月）

第6 審査の結果

審査に付された令和5年度決算書及び附属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、その計数及び会計処理は正確であり、令和5年度の財政状況及び経営成績を適正に表示しているものと認められた。

審査の意見及び決算の概要は、後述のとおりである。

第7 審査の意見

収益的収入の大部分を占める給水収益は、主に一般用の使用水量の減少により、前年比0.01%の減となった。また収益的支出は、漏水等の修繕費が増加したものの人件費等の減少により支出総額は0.01%の減となり、その結果収益的収支は3,373千円の純損失となり、昨年度の純損失1,603千円から1,770千円の増となった。

今後、サービスの提供に必要な施設等の老朽化に伴う更新投資の増大や、人口減少に伴う料金収入の減少等により経営環境も更に厳しさを増しつつある。こうした変化に適切に対応し、そのあり方について検討を行い、経営経費の削減に努めると

ともに、有収率の向上に向けた漏水箇所の早期発見と修繕、水道施設の耐震化に計画的に取り組むなど、安全で安心な水道水の安定供給のためにあらゆる対策を講じていきたい。

第8 決算の概要

1 予算の執行状況

(1) 収益的収支の状況

収 入

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減
水 道 事 業 収 益	1,030,156,000	990,203,078	△39,952,922
営業収益	982,929,000	944,107,472	△38,821,528
営業外収益	47,217,000	46,095,606	△1,121,394
特別利益	10,000	0	△10,000

支 出

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	不 用 額
水 道 事 業 費 用	1,010,241,000	973,917,442	36,323,558
営業費用	984,203,000	950,005,974	34,197,026
営業外費用	24,038,000	23,911,468	126,532
予備費	2,000,000	0	2,000,000

収益的収入及び支出（税抜き）は、事業収益 904,372 千円、事業費用 907,745 千円、収益的収支は 3,372 千円の純損失となった。

事業収益については、給水収益 857,784 千円（構成比 94.85%）が、主なものである。

事業費用については、原水費 506,662 千円（構成比 55.81%）、配水及び給水費 70,711 千円、総係費 55,163 千円、減価償却費 257,283 千円、営業外費用 16,146 千円などである。

(2) 資本的収支の状況

収 入

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減
資 本 的 収 入	105,558,000	102,900,200	△2,657,800
企業債	90,000,000	90,000,000	0
国県補助金	5,000,000	5,000,000	0
工事負担金	10,000	0	△10,000
長期貸付金償還金	0	0	0
固定資産売却収入	10,000	0	△10,000
その他資本的収入	10,538,000	7,900,200	△2,637,800

支 出

(単位：円)

区 分	予 算 額	決 算 額	翌 年 越 度 額 繰 越 額	不 用 額
資 本 的 支 出	417,858,000	371,169,643	0	46,688,357
建設改良費	264,708,000	220,418,723	0	44,289,277
企業債償還金	133,801,000	133,700,898	0	100,102
その他資本的支出	19,349,000	17,050,022	0	2,298,978

資本的収入及び支出(税込み)は、資本的収入 102,900 千円、資本的支出 371,169 千円で、資本的収支の不足額 268,269 千円は、過年度分損益勘定留保資金 248,887 千円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 19,382 千円で補てんした。

資本的収入については、企業債 90,000 千円、その他の資本的収入 7,900 千円が主なものである。

資本的支出については、建設改良費 220,418 千円、企業債元金償還金 133,700 千円などである。主な建設改良工事は老朽管更新事業で、市道白井本線配水管布設替工事や市道田下平城線配水管布設替工事などを行い、管路工事としては、総延長約 2.0 km に渡り工事を実施した。

なお、令和 5 年度末の企業債借入金残高は、2,257,602 千円で、前年度より 43,701 千円増額した。

2 業務量

年 度 項 目		令和 5 年度	令和 4 年度	比 較	
				増 減	比率(%)
行政区域内人口(人)		42,758	43,284	△526	98.78
給水区域内人口(人)		35,600	36,212	△612	98.31
計画給水人口(人)		44,500	44,500	0	—
現在給水人口(人)		35,564	36,176	△611	98.31
普及率(%)		99.90	99.90	0.00	100.00
給水件数(件)		16,130	16,100	30	100.19
年間総配水量(m³)		5,812,024	6,044,740	△232,716	96.15
内 訳	榛南水道(m³)	4,023,169	4,322,260	△299,091	93.08
	大井川広域水道企業団(m³)	1,788,855	1,722,480	66,375	103.85
配水能力(m³/日)		28,500	28,500	0	—
一日最大配水量(m³)		17,444	17,536	△92	99.48
一日平均配水量(m³)		15,880	16,561	△681	95.89
有収水量(m³)		4,492,370	4,497,281	△4,911	99.89
一日一人平均給水量(ℓ/人)		345	341	5	101.33
無収水量(m³)		290,601	302,237	△11,636	96.15
有効水量(m³)		4,782,971	4,799,518	△16,547	99.66
有収率(%)		77.29	74.40	2.89	103.89
有効率(%)		82.29	79.40	2.89	103.65
施設利用率(%)		55.72	58.11	△2.39	95.89
最大稼働率(%)		61.21	61.53	△0.32	99.48
負荷率(%)		91.03	94.44	△3.41	96.39
給水原価(円)		192.19	192.81	△0.62	99.68
供給単価(円)		190.94	190.98	△0.04	99.98

令和 5 年度の給水人口は、35,564 人、給水件数 16,130 件、普及率 99.90%である。また、給水原価は 192 円 19 銭、供給単価は 190 円 94 銭であった。

総配水量 5,812,024 m³、また有収水量は、4,492,370 m³となった。有収率は、77.29%、施設利用率 55.72%、最大稼働率 61.21%、負荷率 91.03%となった。

注記

- 1 千円単位で表示した金額は、原則として千円未満を切り捨てました。
このため差額又は合計金額が一致しない場合があります。
- 2 比率（％）は、原則として小数点以下第３位を四捨五入し表示しました。
このため合計比率が一致しない場合があります。また、決算書等、他の書類と一致しない場合もあります。